

OMM JAPAN 2021 安全管理マネージャーレポート

冒険教育の世界でよく引用される箴言に「船は港に居るときが一番安全だ。しかし、それは船が作られた目的ではない」があります。しかし、沈没してしまっは元も子もありません。挑戦しつつ、如何にして一線を踏み越えないようにするか、それがリスクマネジメントです。自然の中の不確定要素（challenge）に出遭う（face）OMMであるからこそ、参加者にも主催者にもリスクマネジメントが求められます。今後も、OMMらしい挑戦を維持しつつ、超えてはならない一線を如何に越えないためには、私たち安全管理チームと皆さん参加者の協働が不可欠です。今年も、多くの局面で安全のための活動を皆さんと協働できたと感じていますが、一方で、いくつか残念な行動もありました。本レポートでは、それらを紹介しつつ、今後を展望します。

今回の安全上のトラブルや事故発生の状況

1日目は急峻な地形とタフなコースに由来するいくつかの事故やトラブルがありました。ストレートAで、制限時間をかなりのチームがオーバーしましたが、どのチームも適切に対処し、ビバークしたチームは1チームのみでした。このチームも翌朝元気に1日目のフィニッシュに到達し、2日目に向かいました。ビバークチームは例年1件程度出ています。野営の装備もすべて搬送している OMM では、ビバークもまた健全な選択肢の一つであり、より安全な行動であることを今一度思い起こしてください。

強度の捻挫とともに、骨折が2件発生しました。骨折のうち1件については、安全管理チームによる搬送を必要としました。今回は、国道300号線が工事のため通行不能だったので、悪天候下の安全を考え、身延側の集落にある公民館をシェルターとして活用しました。本来OMMは、移動できる限り自力帰還が原則です。今回は道路を使って帰還ができなため、車による搬送も行いました。今後も、状況に応じて臨機応変に対応していきます。

昨年に引き続き、今年も眼のケガが発生しました。診察によれば大事には至らなかったものの、トレイルを外れるナビゲーションスポーツでは藪の通過時に眼へのダメージが発生することがあります。最大限の注意を払うと同時に（バディーがすぐ後ろを動くと、はね返った枝が当たることもあります）、アイウェアの装着を検討してください。

今回、尋常ではないチームの分離が2件見られました。私たちはこれを非常に深刻な事態だと受け止めています。ルールに記載されている通り、バディーは安全の最初で最大の砦です。二人ならなんとかなるが一人ではコントロールできないリスクはアウトドアには至るところにあります。二人組の競技であるからこそ、OMMという不確実性の高い競技が成立します。OMMの出場のみならず、自然の中で活動する時の他者の意義を改めてご確認ください。

ルール・装備についての再度の確認を

抽出で装備チェックを行い、コンパスの紛失、携帯電話の紛失がありました（拾得による発覚も含む）。昨年や一昨年に比較すると大きく減った印象ではあります。装備チェックで探して「ない」と気づいたことは、これらの携帯への意識が十分ではないことを伺わせます。もし本当に必要な時、初めて「ない」と気づいたのであれば、それによるトラブルを制御できない事態に意図せず入り込んでしまったことを意味します。装備チェックはあくまでも競技のために必要なものです。ご自身の命を守る上での「装備チェック」を心がけてください。

装備についての事前の問い合わせが、例年よりも多いのも今年の特徴でした。装備の内容に疑問を感じたら、その必須装備がなぜ定められているかを考えてください。自分が用意しようとしている装備で、想定される悪条件が乗り切れるでしょうか。自ずから回答が見つかるはずですが、競技としての必要性から装備チェックをしていますが、それは失格者を増やすためにあるものではありません。必須装備の工夫もまた、競技の重要な要素なのです。

安全管理上の総括

OMM で定められているルールは、自然の中では特殊なものではありません。まさに「山での適切な判断」を条文化したものにすぎません。装備やルール遵守によって、チャレンジはコントロール可能なものになります。その点を再度強調して安全管理レポートの結びとします。

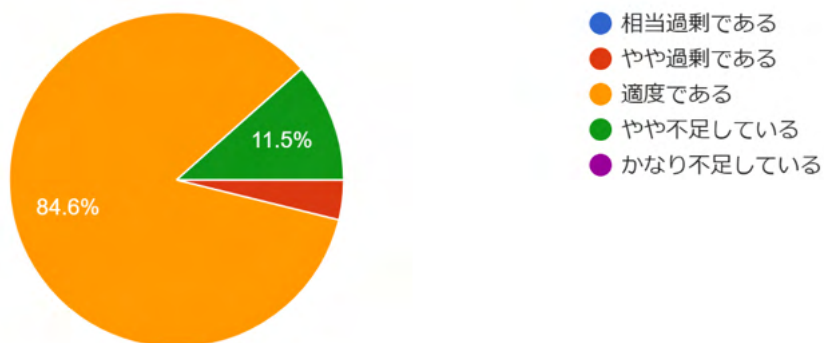
安全管理マネージャー
村越 真

付記：

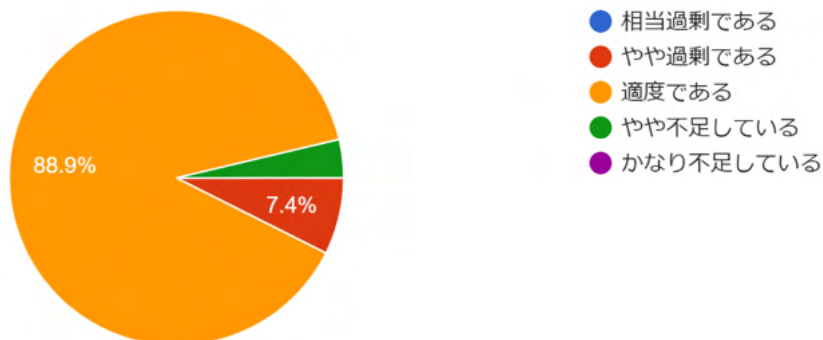
振り返りの際にアンケートを実施しました。回答は 27 と限られていますが、参加者の皆さんの OMM とその安全管理に対する意見の分布をある程度知ることができました。ルールには競技の公平性を保つと同時に、安全を守るという、二つの側面があります。両者をバランスよく実現していく必要があります。いただいた自由記述のご意見はその参考にしたいと思います。

OMMにおける安全管理はいかがでしょうか？

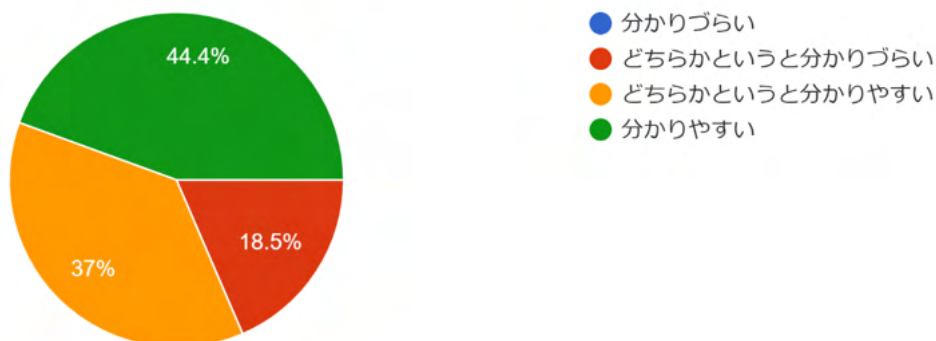
26 件の回答



プログラム等における必須装備についての情報は、
27件の回答



プログラム等における安全についての注意事項の記載は？
27件の回答



【自由記述より】

○今回自販機を使っていた人もいた様なので、基本ルールにはダメならダメで明文化した方がいいと思う。必須装備に帽子があったが、バフで代用可能かどうかとも明記して欲しい。

○特に2日目の終盤で、どう見ても一人で移動している人を複数見かけました。安全管理上の問題もあって2人チーム参加になっているかと思えます。一人で離れて単独行動することのないよう、事前アナウンスを強化したり、ルール違反であることをもっと周知した方が良さそうです。

○仮設トイレの数が少なかった印象です。

○ストレートの上位クラスが、夜中にテンバへ帰還した際、今回は空きスペースが少なく、寒い中、なかなかテントをはれず苦勞している様子でした。

○宴会などによるスペースの過剰占有、もしくは上位クラス専用のテントスペースを設けるなど対応をお願い出来ないでしょうか。

○OMMの安全管理は登山者として必要な考え方であり、参加者のみならず一般登山者にも浸透して欲しいです。

○レギュレーションチェックを適切にして欲しいです。